

鶏鳴

けいめい

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『賢いおとめたちは、それぞれのともし火と一緒に、壺に油を入れて持っていた』

聖書(マタイ福音書 25章 4節)

牧師 河合裕志

イエスの語ったものに「十人のおとめ」のたとえ話というのがある。このうち五人は賢く五人は愚かという設定。この賢愚の境目は油の用意をしていたかどうかということ。賢いおとめたちは油を準備、愚かなおとめたちはそうしていなかった。

この油とは何? ここでは燃料用のオリブ油。そしてここでは花婿を迎えに出ることと関連している。あちらの国では結婚式はしばしば夜分に行われた。花婿が花嫁を迎えに彼女の家に向う。その際花嫁の友人、おとめらが手に手にともし火を灯して花婿を迎え出るといふ段取り。

ところでこの話では花婿の到着が遅れたのでおとめたちは全員眠気がさしてグーグー眠り込んでしまう。昼の疲れがどっと出た。これは責められない。遅れる方が悪い。そうしたところ「花婿だ、迎えに出なさい」との叫ぶ声。これが耳に入るや、一同はがばっと起きてともし火を急ぎ整える。

ところがここでハプニング。五人のおとめらのともし火は元気がない。チョロチョロとまさに風前のともし火。あわてて油を足そうとするが壺は空っぽ。そこで他の五人に「油を分けて下さい」と願ったところ、「分けてあげられるほどはありません。そ

れより、店に行って、自分の分を買って来なさい」とのつれない返事。仕方なく買いに行くがその間に花婿が到着。油の用意のあった五人はあかあかとともし火をかざして花婿を迎え婚宴の席に入り戸が閉められる。そのあとあたふたと五人がかけつけ戸をどんどん叩くけれど可哀相に開けてもらえない…。

以上がたとえ話。そしてイエスはこう言う。『だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから』。「その日、その時」とはここでは花婿の来る時のこと。これは実はイエスがもう一度世に来ることを言っている。

聖書ではしばしばイエスが花婿にたとえられている。イエスがいつ来てもよいように油を用意していなさいと。この油とは人への親切な行いとか、神への信仰とか、イエスの霊である聖霊といったものか。

またこのたとえ話は文字通り「油断大敵」を教えている。つい私達は気がゆるんでしまう。戸締りを忘れる、暴飲暴食をしてしまう、金儲けのうまい話に乗る、暴漢に襲われる、大地震を忘れる…。そうピリピリすることはないけれど出来るだけの注意を払ってほしいもの。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時